

事業概要

令和5年度



福岡県食肉衛生検査所

〒818-0072

福岡県筑紫野市二日市中央4丁目5番34号

e-mail shokunikukensa@pref.fukuoka.lg.jp

TEL 092(923)6621

FAX 092(923)6648

は じ め に

福岡県では福岡県食品の安全・安心の確保に関する条例に基づき、「福岡県食品の安全・安心の確保に関する基本計画(第2次)」を策定し、食品の安全・安心の確保に関する基本的施策を総合的かつ計画的に推進しているところです。

当所においては、食肉・食鳥肉の安全・安心の確保に向けて、流通の源であると畜場や大規模食鳥処理場において、厳正な検査を実施し確実な疾病排除を行うとともに、施設の衛生管理状況や衛生検査等に基づく指導により食肉・食鳥肉処理工程における衛生確保並びにその水準の向上に努めています。認定小規模食鳥処理場の監視指導については、定期的に立入検査を実施し、衛生水準の向上等を図っています。

また、令和3年6月からと畜場・大規模食鳥処理場において HACCP による衛生管理の実施が義務化されたことに伴い、各施設に対して定期的に外部検証や監視を実施し、検証結果に基づき衛生管理が適切に運用されるよう助言・指導を行っています。

さらに、家畜伝染病が管内で発生した場合に備え、日頃から家畜保健衛生所との連携を密に行い、感染拡大を防止するための危機管理体制の強化を図っています。

今後とも、最新の知識の習得と技術の研鑽に努め、食肉・食鳥肉の安全・安心確保のための検査・指導体制の強化を図るとともに、食品衛生・家畜衛生等の関係機関との情報交換を密にし、幅広い視点から食肉・食鳥肉のより一層の衛生確保に努めて参る所存でありますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

ここに、令和5年度事業概要をとりまとめましたので、ご高覧をいただければ幸いと存じます。

令和6年 8 月

福岡県食肉衛生検査所長 梅崎 由佳

目 次

第1章	総 説	
1	福岡県のと畜、食鳥検査の概要	1
2	施設概要及び位置案内図	2
3	組織・機構及び職員構成	4
4	所管すると畜場及び食鳥処理場の位置図	5
5	所管と畜場の概要	6
6	所管大規模食鳥処理場の概要	7
7	所管認定小規模食鳥処理場の概要	8
8	令和4年度収入及び支出の状況	9
9	と畜・食鳥検査手数料及び証明手数料	9
第2章	事業概要	
1	と畜検査	
(1)	と畜場別・畜種別 と畜検査頭数	10
(2)	と畜場別・畜種別月間検査頭数	11
(3)	と畜場内と殺頭数及び獣畜のと殺解体禁止又は廃棄したものの原因	12
(4)	と畜場別・畜種別と殺解体禁止又は全部廃棄頭数	13
(5)	牛のと畜場別・器官別疾病数	14
(6)	馬のと畜場別・器官別疾病数	16
(7)	豚のと畜場別・器官別疾病数	17
(8)	とくのと畜場別・器官別疾病数	19
(9)	めん羊のと畜場別・器官別疾病数	19
(10)	山羊のと畜場別・器官別疾病数	20
(11)	病畜検査状況	21
(12)	と畜種別・出荷地別搬入状況	22
(13)	B S E 検査	23
2	食鳥検査	
(1)	大規模食鳥処理場の食鳥検査羽数及び検査結果	24
	過去3年間の廃棄の原因(禁止・全部廃棄)	25
	と殺、内臓の摘出禁止又は廃棄したものの原因	26
(2)	認定小規模食鳥処理場の確認羽数及び確認結果	27
3	精密検査	
(1)	微生物検査	28
(2)	理化学検査	29
(3)	病理検査	31
(4)	業務管理基準(G L P)の対応、整備について	33
4	衛生指導	
(1)	微生物検査	35
(2)	衛生旬間	36
(3)	と畜場、大規模食鳥処理場に併設する食肉処理施設等の監視指導	36
第3章	調査研究	
1	学会及び誌上発表一覧	37

第1章 総説

1 福岡県のと畜、食鳥検査の概要

(1) と畜検査の概要

福岡県が管轄する地域(福岡市、北九州市、久留米市を除く。)にはと畜場が2施設ある。令和5年度は専任のと畜検査員19名でと畜検査を行った。

令和5年度の検査頭数は牛19,061頭、とく74頭、馬1,184頭、豚56,498頭、めん羊0頭、山羊0頭で、前年度比はとくが1頭、馬が131頭、豚が1,319頭減少しており、牛が911頭増加している。各と畜場の検査頭数は第2章に示しているとおりである。

本県管轄内で最も大きなと畜場である九州協同食肉株式会社はJA全農の関連会社で、牛豚ともに県内をはじめ九州各県及び山口県等広い範囲から搬入されており、牛においては肉用種の比率が高い。

一方、県南部のと畜場である県南食肉センターでは年間のと畜頭数の約4割が馬である。

BSEスクリーニング検査は、平成29年4月に健康なと畜牛の検査が廃止されたため、症状等により検査が必要とみなされた牛の検査を実施している。

最新の知識の習得と技術の研鑽に努め、と畜検査による疾病排除及びと畜場の衛生面での向上を目指している。

(2) 食鳥検査の概要

本県が管轄する地域には、大規模食鳥処理場が2施設、認定小規模食鳥処理場が13施設(休止3施設含)あり、専任の食鳥検査員6名で食鳥検査等を行っている。

大規模食鳥処理場については、処理場の開場時刻の都合により朝6時及び6時45分から食鳥検査を行っている。令和5年度の検査羽数は、ブロイラー499,856羽、成鶏2,029,652羽、合計2,529,508羽であった。

認定小規模食鳥処理場については、各施設の稼働時間に合わせて定期的に巡回し、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律に基づく基準適合の確認及び施設の維持管理等について指導・相談対応を行っている。

また、大規模食鳥処理場においては鳥インフルエンザを発見した場合の対応なども整備し、消費者へ安全な食肉を届けるための検査体制の充実に努めている。

と畜検査や食鳥検査で得た検査成績は、県内家畜保健衛生所等を通して生産農家へフィードバックし健康な家畜・家禽の生産に活用してもらうことで、農家から消費者に至るまでの食肉・食鳥肉に関係する業界全体の安全性の確保を目指している。

2 施設概要及び位置案内図

敷地面積 1,290.11 m²

建物 (建坪総面積合計 744,338 m²)

①本館棟	鉄筋コンクリート	2階建	648.588 m ²
②付属舎棟	鉄筋コンクリート	平屋造	54.000 m ²
③車庫棟	鉄筋コンクリート	平屋造	26.560 m ²
④倉庫棟	木造プレハブ	平屋造	15.190 m ²

建設費総額 213,639 千円

(国庫補助 17,065 千円)

(起 債 92,000 千円)

(一般県費 104,574 千円)

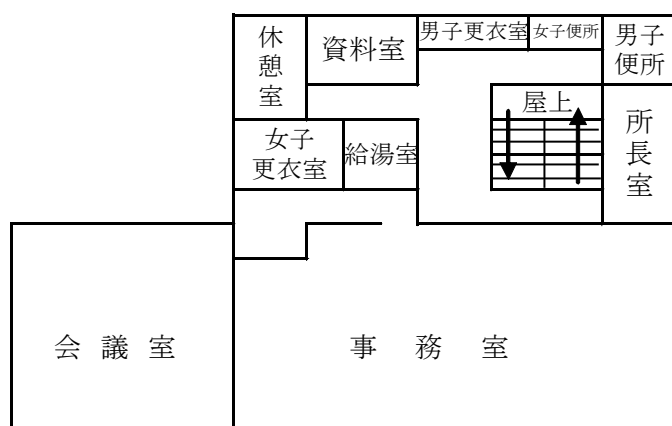
建設費内訳	設計委託費	9,770 千円
	工事費	169,079 千円
	備品費	30,834 千円
	その他諸経費	3,956 千円

竣 工 昭和 60 年 3 月 30 日

増 築 平成 4 年 3 月 31 日



建物配置図



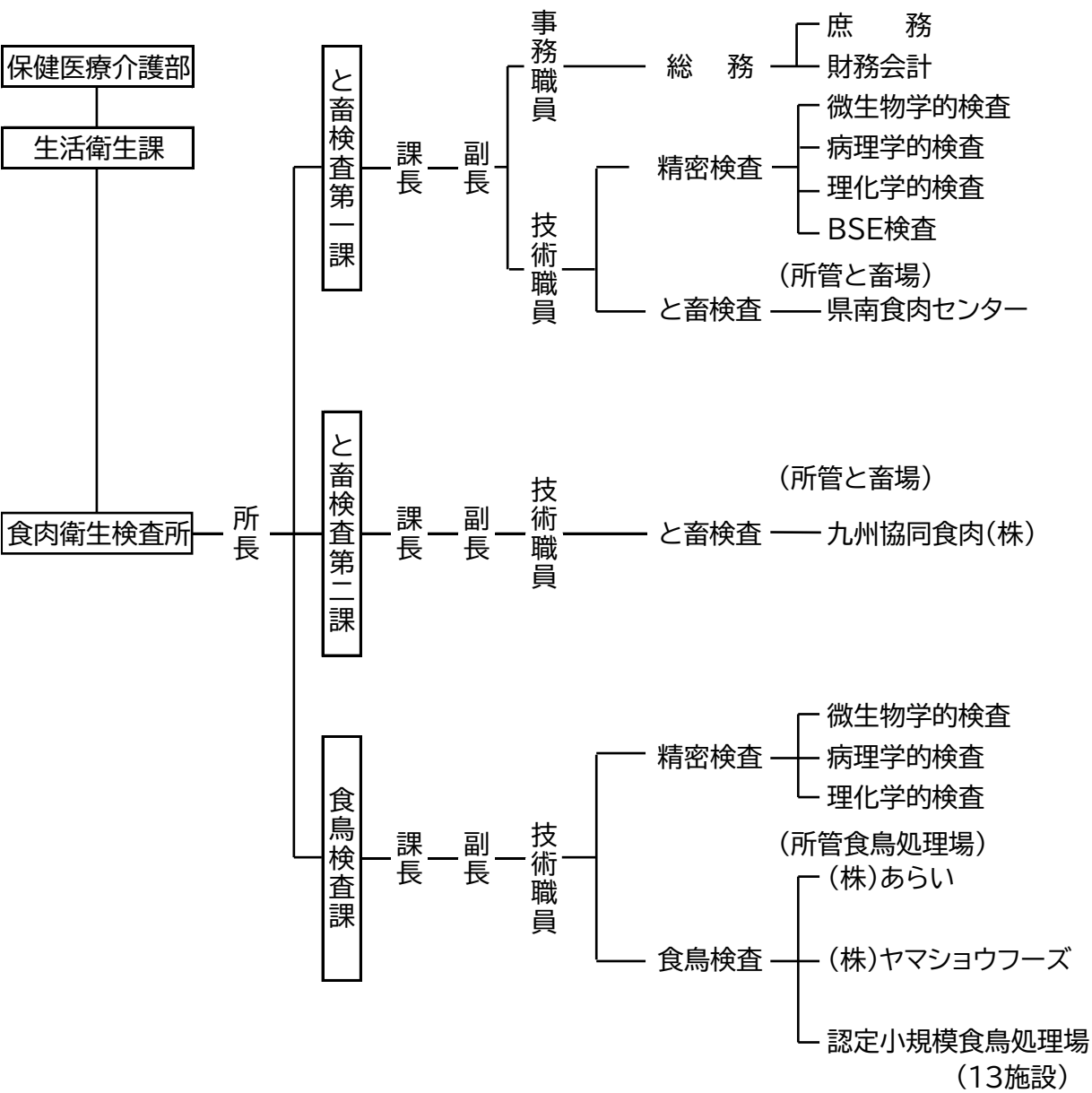
建物平面図(2階)



建物平面図(1階)

3 組織・機構及び職員構成

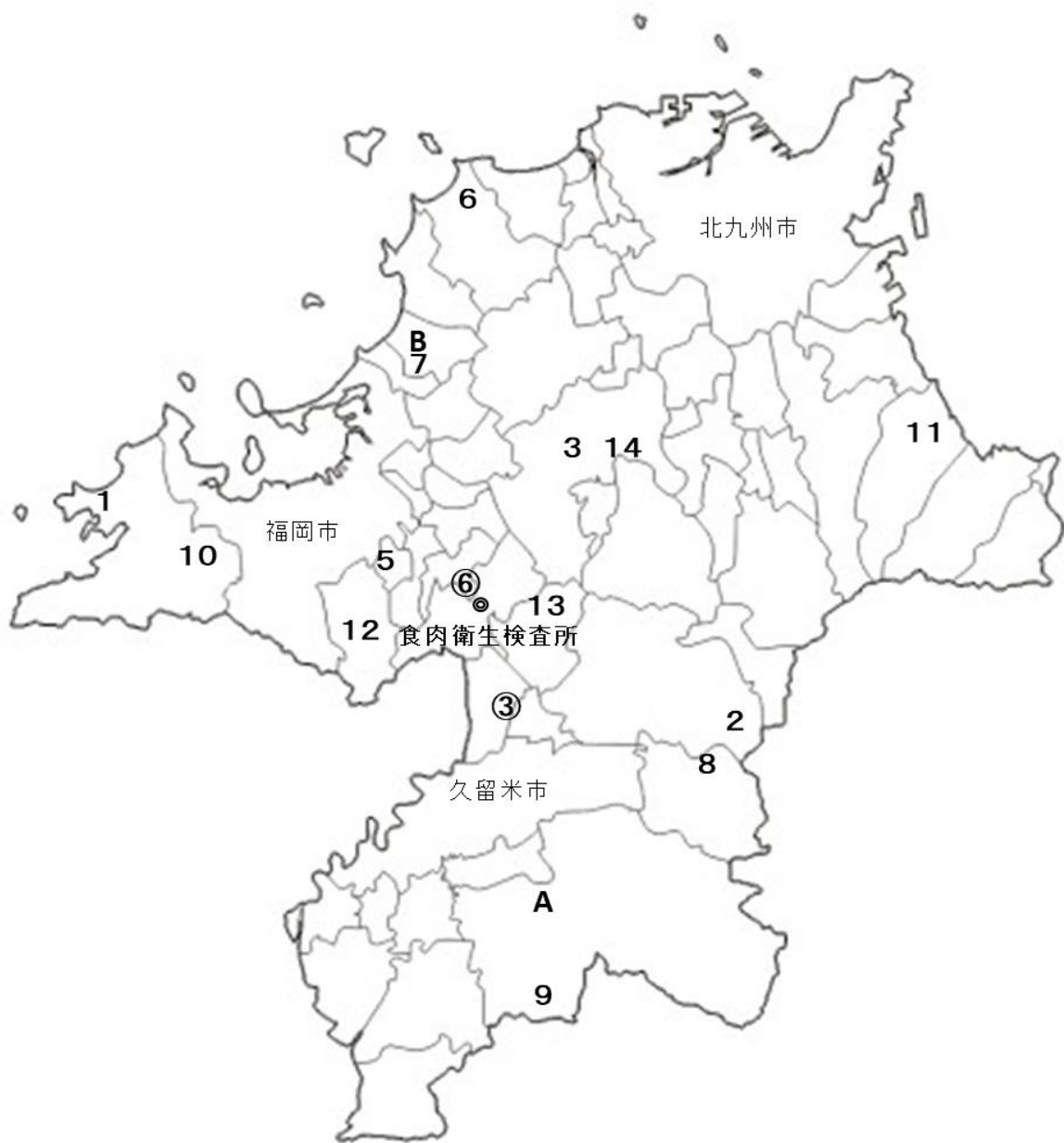
(1)検査所の組織及び機構(令和6年3月31日現在)



(2)職員構成(令和6年3月31日現在)

	総員	事務職員	技術職員(獣医師)								
		事務主査	所長	課長	参事補佐	副長	企画主査	技術主査	主任技師	技師	主事補
所長	1		1								
と畜検査第一課	13	2		1		1		2	7		
と畜検査第二課	7			1		1		1	3	1	
食鳥検査課	6			1		1		3	1		
計	27	2	1	3	0	3	0	6	11	1	0

4 所管すると畜場及び食鳥処理場の位置図



③、⑥:と畜場

A、B:大規模食鳥処理場(年間処理羽数が30万羽を超える施設)

1～3, 5～14:認定小規模食鳥処理場(年間処理羽数が30万羽以下の施設)

(10, 13, 14 は休止中)

* 福岡市、北九州市及び久留米市を除く。

5 所管と畜場の概要(令和6年3月31日現在)

と畜場 番号	と畜場名	設置者	所在地	許可年月日	面積(㎡)		処理能力(頭/1日)		
					敷地	建物(延)	大動物	小動物	小動物換算
3	県南食肉センター	県南食肉センター協同組合	〒838-0132 小郡市光行1152	H4.10.16	4,975	1,537	40	0	160
6	九州協同食肉株式会社	九州協同食肉株式会社	〒818-0105 太宰府市都府楼南5-15-1	S58.9.24	21,976	4,079	94	300	676

※ただし、県南食肉センターの大動物には1歳未満を含む

6 所管大規模食鳥処理場の概要(令和6年3月31日現在)

番号	食鳥処理場名	所在地	許可年月日	処理食鳥種	平均処理羽数(羽/1日)	処理の形態	食鳥処理 衛生管理者 設置数
A	株式会社 ヤマショウフーズ	〒834-0016 八女市豊福241-2	H6.9.26	成鶏 (採卵鶏) ブロイラー	7,583	外剥ぎ /中抜き	10名
B	株式会社 あらい	〒811-3134 古賀市青柳3272-17	H6.11.10	ブロイラー	1,990	自動中抜き	8名

7 所管認定小規模食鳥処理場の概要(令和6年3月31日現在)

番号	食鳥処理施設		処理食鳥種		年間確認羽数(羽/年)			許可 年月日	備考
	所在地	施設名	ブロ イ ラー	成鶏	30万 ～ 10万	10万 ～ 1万	1万 以下		
1	糸島市	山本かしわ店		○			○	H4.3.30	
2	朝倉市	因間食鳥		○		○		H4.3.30	
3	飯塚市	石丸食鳥		○		○		H4.3.30	
5	春日市	とり武		○			○	H6.7.1	
6	宗像市	広橋養鶏場		○			○	H10.5.27	
7	古賀市	青柳養鶏場		○			○	H13.9.20	
8	うきは市	(有)石井食鳥		○	○			H15.8.6	
9	八女市	ミミタビー	○	○			○	H23.6.1	
10	糸島市	(有)ヨコテ		○				H25.2.7	R4.12.31～ 休止
11	築上町	城井ふる里村	○	○		○		H25.8.7	
12	那珂川市	うそやまファーム		○			○	H27.3.16	
13	朝倉郡筑前町	俊工房		○				H28.5.9	R4.5.1～休止
14	飯塚市	北九福島(株)飯塚営業所		○				H4.3.30	H25.7.12～休止

注)番号4の食鳥処理施設は、廃止のため欠番扱い。

8 令和5年度収入及び支出の状況

区分	科 目	令和5年度決算額
収入	と 畜 検 査 手 数 料	29,118,600
	食 鳥 検 査 手 数 料	10,118,032
	証 明 手 数 料	251,600
	食鳥処理事業許可手数料	0
	計	39,488,232
支出	普 通 旅 費	2,711,938
	光 熱 水 費	2,467,237
	そ の 他 需 用 費	5,446,959
	通 信 運 搬 費	173,828
	そ の 他 役 務 費	155,280
	委 託 費	2,522,850
	使 用 料 及 び 賃 借 料	151,207
	備 品 購 入 費	820,930
	計	14,450,229

(単位:円)

9 と畜・食鳥検査手数料及び証明手数料

区分		手数料
検査手数料	牛・馬	1頭につき600円
	とく・こま・豚・めん羊・山羊	1頭につき300円
	食鳥	1羽につき4円
諸証明手数料		1件につき400円

第 2 章 事業概要

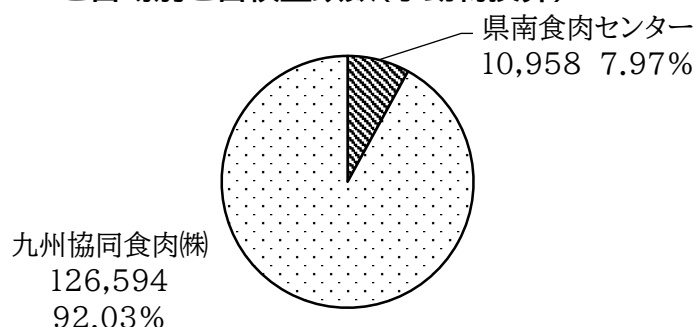
1 と畜検査

(1) と畜場別・畜種別と畜検査頭数

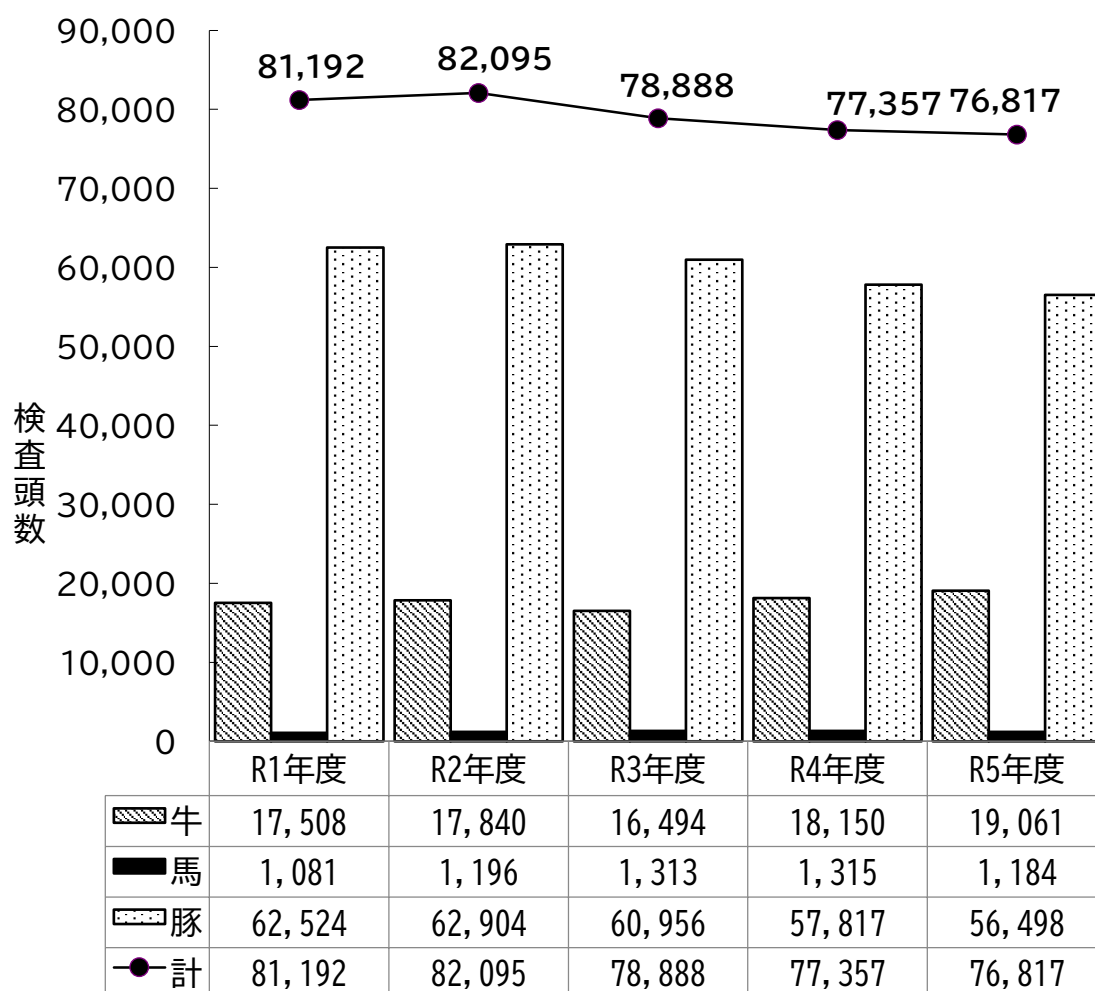
	牛	とく	馬	豚	めん羊・山羊	小動物換算合計 (うち病畜数)
県南食肉センター	1,537 (67)	74 (0)	1,184	0	0	10,958 (268)
九州協同食肉(株)	17,524 (69)	0 (0)	0	56,498	0	126,594 (276)
合計実頭数 (うち病畜数)	19,061 (136)	74 0	1,184 0	56,498 0	0	137,552 (544) 76,817 (136)

※小動物換算:大動物(牛,馬)=小動物×4

と畜場別と畜検査頭数(小動物換算)



過去5年間のと畜検査頭数の推移



(2) と畜場別・畜種別月間検査頭数

【県南食肉センター】

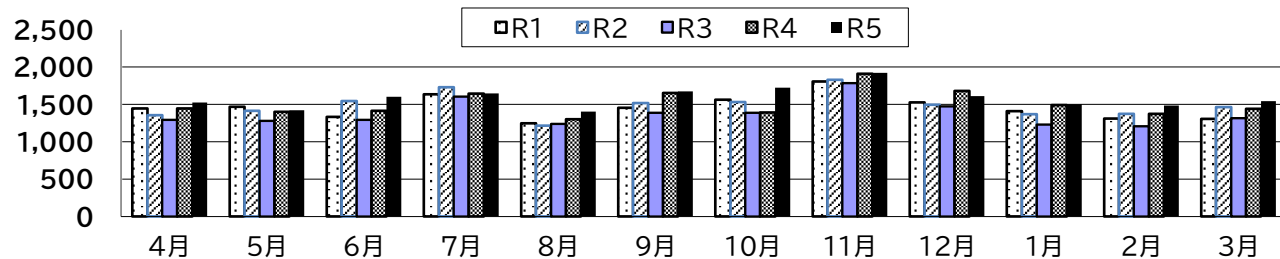
畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
牛	1,537	154	118	122	93	98	123	160	160	111	118	114	166
とく	74	8	7	4	6	7	8	6	6	3	9	6	4
馬	1,184	86	93	79	89	127	88	83	87	227	71	73	81
豚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
めん羊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山羊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【九州協同食肉(株)】

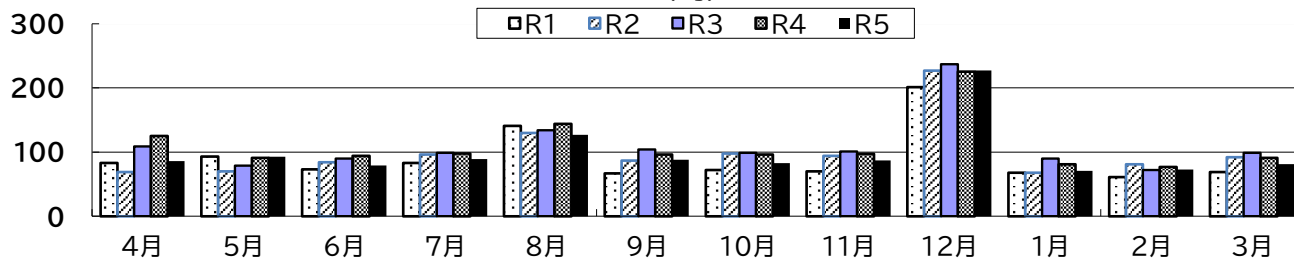
畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
牛	17,524	1,372	1,304	1,482	1,553	1,305	1,553	1,562	1,764	1,499	1,384	1,369	1,377
豚	56,498	4,342	4,730	4,996	4,631	4,732	4,151	4,555	4,949	5,109	4,984	4,699	4,620
とく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

過去5年間の月別と畜検査頭数の推移

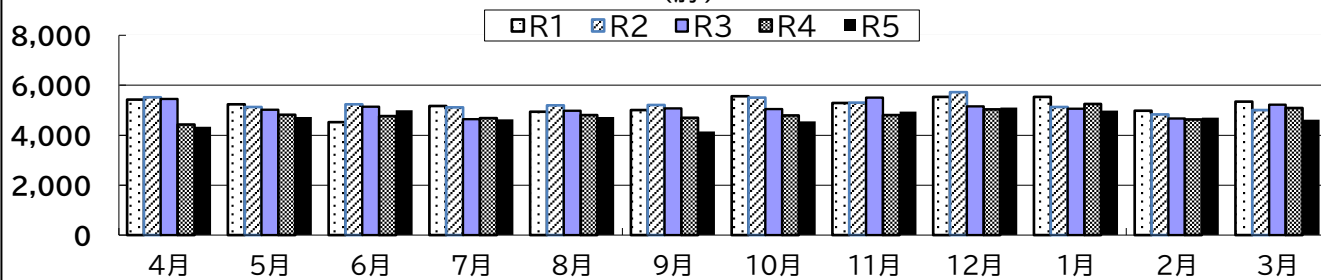
(牛)



(馬)



(豚)



(3) と畜場内と殺頭数及び獣畜のと殺解体禁止又は廃棄したもの原因

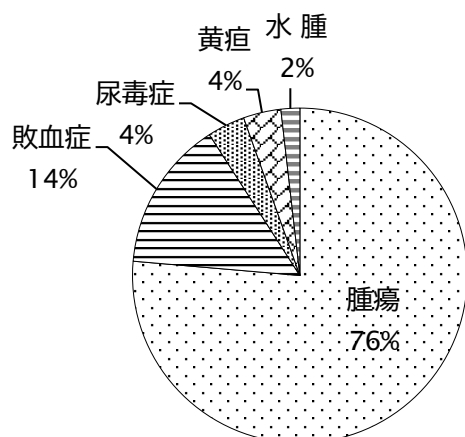
獣種	と畜場内と殺頭数	措置	処分頭数	疾病別頭数																										計
				細菌病								ウイルス・リケッチア病	原虫病	寄生虫病	その他の疾病															
				炭疽	豚丹毒	豚赤痢	サルモネラ病	結核病	ブルセラ病	破傷風	放線菌病	その他	豚熱	その他	トキソプラズマ	その他	嚢胞虫病	ジストマ病	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	中毒諸症	炎症又は炎症産物による汚染	変性又は萎縮	その他	
牛	19,061	禁止																												
		全部廃棄	55																	8	2	2	1	42					55	
		一部廃棄	13,465							20							45						90	1		10,976	5,259	24	16,415	
とく	74	禁止																												
		全部廃棄																												
		一部廃棄	2																							2			2	
馬	1,184	禁止																												
		全部廃棄	1																			1							1	
		一部廃棄	300														1							2		129	186	4	322	
豚	56,498	禁止	6															5	1										6	
		全部廃棄	27		6														10	11									27	
		一部廃棄	27,218																				2		27,218	9	340	27,569		
めん羊		禁止																												
		全部廃棄																												
		一部廃棄																												
山羊		禁止																												
		全部廃棄																												
		一部廃棄																												

(4) と畜場別・畜種別と殺解体禁止又は全部廃棄頭数

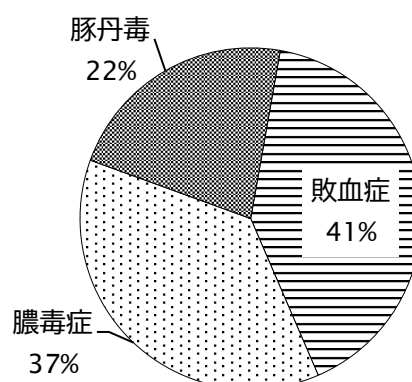
種 別 と 畜 場 名	獣 種	と殺解体禁止				全 部 廃 棄								合 計
		膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	合 計	膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	豚 丹 毒	豚 赤 痢	
県南食肉センター	牛	0	0	0	0	0	5	0	1	1	23			30
	とく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	馬	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0			1
	豚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州協同食肉㈱	牛	0	0	0	0	0	3	2	1	0	19			25
	豚	5	1	0	6	10	11	0	0	0	0	6	0	27
合 計	牛	0	0	0	0	0	8	2	2	1	42	0	0	55
	とく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	馬	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	豚	5	1	0	6	10	11	0	0	0	0	6	0	27

全部廃棄頭数疾病別割合

牛（55件）



豚（27件）



(5) 牛のと畜場別・器官別疾病数【図1】

と畜場名	県南	九食	合計
と畜検査頭数	1,537	17,524	19,061
処分実頭数	1,114	12,351	13,465

疾 病 名				
循環器系	心 筋 炎	8	3	11
	心 外 膜 炎	157	239	396
	心 内 膜 炎	3	2	5
	心臓リポフスチン沈着	9	2	11
	心 内 膜 石 灰 沈 着 症			0
	心 筋 出 血	1	17	18
	心 嚢 膜 膿 瘍			0
	大 動 脈 炎			0
	小 計	178	263	441
血液・造血器系	脾 嚢 瘍			0
	脾 包 膜 炎	2	5	7
	脾 炎			0
	脾 腫		1	1
	リンパ節膿瘍	1	45	46
	リンパ節結節			0
	リンパ節血腫			0
	小 計	3	51	54
呼吸器系	肺炎（その他）	104	943	1,047
	肺 嚢 瘍	37	216	253
	胸 膜 炎	229	4,245	4,474
	横 隔 膜 膿 瘍	13	273	286
	横 隔 膜 水 腫			0
	縦 隔 膜 膿 瘍	1		1
	縦 隔 膜 水 腫	1		1
小 計	385	5,677	6,062	
泌尿・生殖器系	腎炎（その他）	36	71	107
	腎 嚢 瘍	1	25	26
	腎 出 血			0
	腎 結 石	1	2	3
	腎臓リポフスチン沈着	17	1	18
	腎 腫 瘍			0
	水 腎 症			0
	腎周囲脂肪壊死	5	549	554
	の う 胞 腎	9	12	21
	膀 胱 炎		13	13
	膀 胱 膿 瘍		4	4
	膀 胱 結 石		1	1
	尿 道 炎			0
	尿 道 結 石			0
	乳 房 炎	5	29	34
	乳 頭 腫		1	1
	子 宮 蓄 膿 症	1	3	4
	子 宮 内 膜 炎			0
	膣 脱			0
	子 宮 水 腫			0
	卵 胞 嚢 腫			0
	小 計	75	711	786

と 畜 場 名		県 南	九 食	合 計
疾 病 名				
消化器系	舌 膿 瘍			0
	舌 潰 瘍			0
	舌 炎	5	3	8
	胃炎（その他）	36	965	1,001
	胃 潰 瘍	1	1	2
	胃 膿 瘍	15	23	38
	第3胃色の異常		121	121
	第3胃形の異常		35	35
	小 腸 炎	29	3,008	3,037
	大 腸 炎	27	1,874	1,901
	腸 膿 瘍			0
	腸 結 節 虫 症			0
	腸 間 膜 膿 瘍	7	9	16
	腸間膜脂肪壊死	13	1,269	1,282
	腹 膜 炎	4	12	16
	腸 間 膜 水 腫			0
	肝 蛭 症	5	40	45
	肝炎（その他）	205	1,125	1,330
	胆 管 炎	3	311	314
	肝 膿 瘍	52	468	520
	肝 硬 変	1		1
	肝 包 膜 炎	241	878	1,119
	肝 出 血	246	2,060	2,306
	肝 静 脈 炎		119	119
	肝 富 脈 斑	170	166	336
	肝 う っ 血	2	37	39
	肝リポフスチン沈着	5	0	5
	鋸 屑 肝	27	1,191	1,218
	脾 蛭 症			0
	脾 膿 瘍			0
	脾 炎			0
	ヘルニア			0
	小 計	1,094	13,715	14,809
運動器系	筋（筋間）水腫	8	81	89
	筋炎（その他）	57	243	300
	筋 膿 瘍	17	36	53
	筋 出 血	2	1	3
	筋 脂 肪 症			0
	筋リポフスチン沈着	1		1
	関 節 炎	6	3	9
	脱臼	1		1
	骨 折		1	1
	小 計	92	365	457
その他	皮 膚 炎		2	2
	パピローマ			0
	皮 下 水 腫			0
	皮 下 膿 瘍			0
	放 線 菌 病	12	8	20
	メラノーシス			0
	腫 瘍			0
	小 計	12	10	22
合 計		1,839	20,792	22,631

(6) 馬のと畜場別・器官別疾病数【図2】

と畜場名		県南	九食	合計
と畜検査頭数		1,184	0	1,184
処分実頭数		300	0	300

疾病名				
循環器系	心筋出血			0
	心外膜炎	4		4
	心内膜炎			0
	心筋炎	1		1
	心臓リポフスチン沈着			0
	大動脈炎	1		1
	小計	6		6
造血器系	脾臓瘍	1		1
	脾臓腫			0
	リンパ節膿瘍			0
	小計	1		1
呼吸器系	肺炎（その他）	76		76
	肺出血	1		1
	肺虫症	1		1
	肺臓瘍			0
	胸膜炎	10		10
	小計	88		88
消化器系	胃炎（その他）	1		1
	小腸炎	2		2
	大腸炎	4		4
	胃臓瘍			0
	腸結節虫症	1		1
	腸間膜膿瘍			0
	腹膜炎	1		1
	肝炎（その他）	24		24
	肝硬変			0
	肝包膜炎	7		7
	肝出血	2		2
	肝線維症			0
	肝砂粒症	176		176
	肝リポフスチン沈着			0
	肝うっ血			0
	肝臓瘍			0
	鋸屑肝			0
	肝富脈斑			0
	小計	218		218
泌尿・生殖器系	腎炎（その他）	1		1
	腎臓瘍			0
	腎結石			0
	嚢胞腎			0
	腎臓の腫瘍			0
	リポフスチン沈着腎			0
	膀胱炎			0
	小計	1		1
運動器系	筋炎（その他）	8		8
	筋出血	8		8
	筋（筋間）水腫			0
	筋臓瘍			0
	腱炎			0
	腱断裂			0
	関節炎			0
	骨折	3		3
	脱臼			0
	小計	19		19
その他	メラノーマ			0
	メラノージス	3		3
	皮膚炎（その他）			0
	小計	3		3
合計		336		336

(7) 豚のと畜場別・器官別疾病数【図3】

と 畜 場 名	県 南	九 食	合 計
と 畜 検 査 頭 数	0	56,498	56,498
処 分 実 頭 数	0	27,218	27,218

疾 病 名				
循環器系	心 筋 炎		16	16
	心 筋 膿 瘍			0
	心 筋 出 血		9	9
	心 内 膜 炎			0
	心 外 膜 炎		2,108	2,108
	心 奇 形			0
	小 計	0	2,133	2,133
造血液・ 造器系	脾 膿 瘍			0
	脾 腫			0
	脾 包 膜 炎		190	190
	リンパ節膿瘍		97	97
	リンパ節結節		1,224	1,224
	小 計	0	1,511	1,511
呼吸器系	肺 炎 (そ の 他)		16,434	16,434
	S E P		48	48
	肺 膿 瘍		433	433
	肺 虫 症			0
	胸 膜 肺 炎		19	19
	胸 膜 炎		2,948	2,948
	横 隔 膜 膿 瘍		3	3
	小 計	0	19,885	19,885
消化器系	胃 炎		1,713	1,713
	胃 膿 瘍		7	7
	胃 潰 瘍			0
	小 腸 炎		2,715	2,715
	大 腸 炎		311	311
	腸 膿 瘍			0
	腹 膜 炎		729	729
	腹 腔 内 膿 瘍			0
	腸 気 泡 症		10	10
	直腸脱・脱肛		1	1
	ヘルニア		47	47
	肝炎(その他)		1,814	1,814
	肝 膿 瘍		3	3
	間 質 性 肝 炎		1,540	1,540
	肝 硬 変			0
	肝 包 膜 炎		1,161	1,161
	肝 出 血			0
	肝 う っ 血			0
	小 計	0	10,051	10,051

と畜場名		県南	九食	合計
泌尿・生殖器系	腎炎(その他)		314	314
	腎膿瘍		1	1
	のう胞腎		281	281
	水腎症			0
	膀胱炎		1	1
	小計	0	597	597
運動器系	筋炎(その他)		105	105
	筋膿瘍		178	178
	筋水腫		2	2
	筋出血			0
	骨関節折		1	1
	骨関節炎		1	1
	小計	0	287	287
その他	皮膚炎			0
	皮下膿瘍		46	46
	耳血腫			0
	耳介変形			0
	小計	0	46	46
合計		0	34,510	34,510

[参考]器官別疾病数割合(牛・豚・馬)

図1 牛(22,631件)

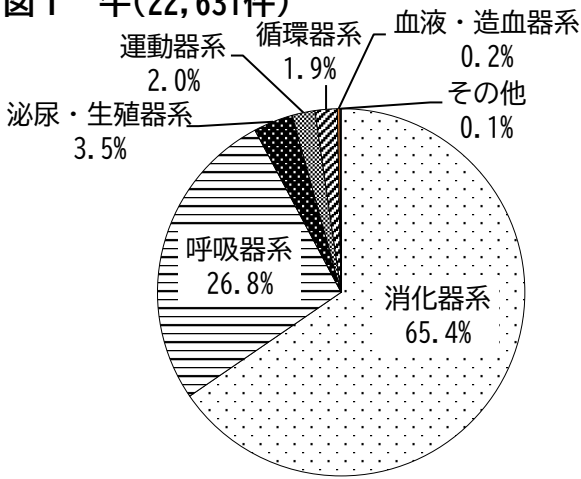


図2 馬(336件)

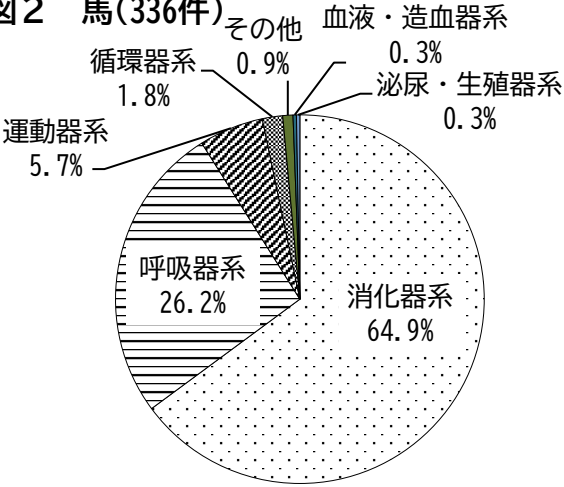
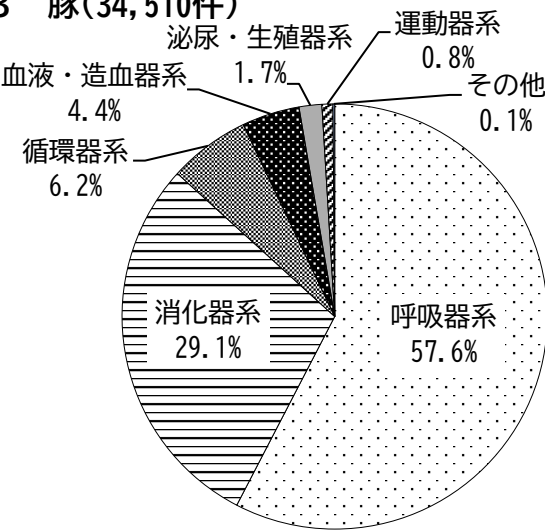


図3 豚(34,510件)



(8) とくのと畜場別・器官別疾病数

と 畜 場 名	県 南	九 食	合 計
と 畜 検 査 頭 数	74	0	74
処 分 実 頭 数	2	0	2

疾 病 名				
循環器系	心 外 膜 炎			0
	心 内 膜 炎			0
	心 筋 炎			0
	小 計	0	0	0
泌尿器系	腎 炎			0
	膀 胱 炎			0
	小 計	0	0	0
呼吸器系	肺 炎	2		2
	肺 膿 瘍			0
	横 隔 膜 膿 瘍			0
	胸 膜 炎			0
	小 計	2	0	2
消化器系	胃 炎			0
	小 腸 炎			0
	大 腸 炎			0
	肝 炎 (そ の 他)			0
	肝 出 血			0
	鋸 屑 肝			0
	肝 膿 瘍			0
	腹 膜 炎			0
	腸 間 膜 膿 瘍			0
	ヘルニア			0
	小 計	0	0	0
運動器系	筋 膿 瘍			0
	筋 炎			0
	筋 水 腫			0
	骨 折			0
	関 節 炎			0
	小 計	0	0	0
その他	皮 下 膿 瘍			0
	小 計	0	0	0
合 計		2	0	2

(9) めん羊のと畜場別・器官別疾病数

と 畜 場 名	県 南	九 食	合 計
と 畜 検 査 頭 数	0	0	0
処 分 実 頭 数	0	0	0

疾 病 名				
	肺 炎			0
	肝 炎			0
	鋸 屑 肝			0
	ヘルニア			0
				0
合 計		0	0	0

(10) 山羊のと畜場別・器官別疾病数

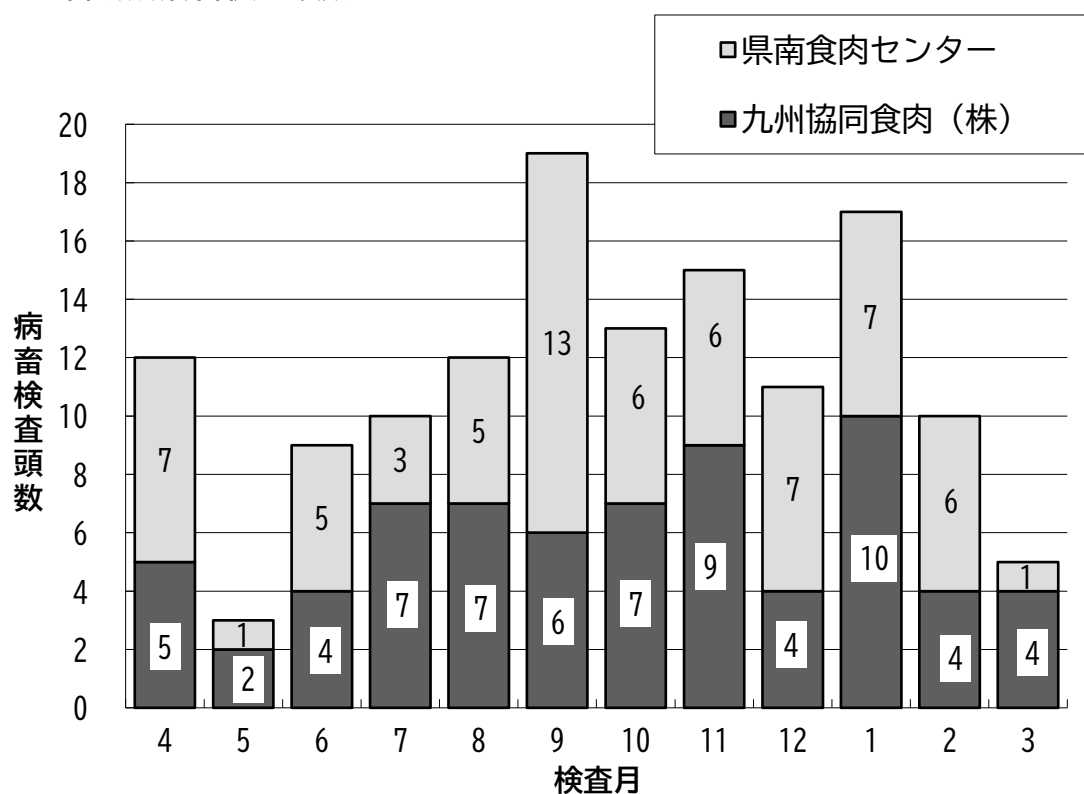
と 畜 場 名		県 南	九 食	合 計
と 畜 検 査 頭 数		0	0	0
処 分 実 頭 数		0	0	0
疾 病 名				
	心 外 膜 炎			0
	肺 炎			0
	脱 臼			0
				0
合 計		0	0	0

(11) 病畜検査状況

ア と畜場別・畜種別・月別病畜検査頭数

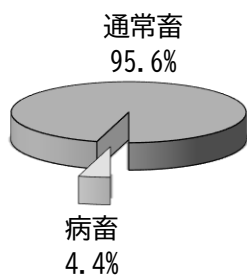
と畜場名	畜種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
県南食肉センター	牛	7	1	5	3	5	13	6	6	7	7	6	1	67
	とく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州協同食肉(株)	牛	5	2	4	7	7	6	7	9	4	10	4	4	69
	とく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月 計	牛	12	3	9	10	12	19	13	15	11	17	10	5	136
	とく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

イ と畜場別病畜検査頭数

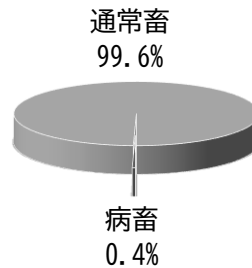


ウ 各と畜場における検査総数に占める病畜検査頭数割合

県南食肉センター (牛)



九州協同食肉(株) (牛)

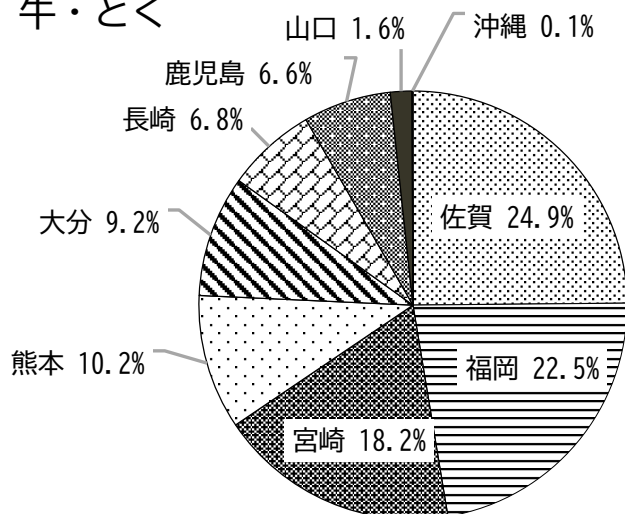


(12) と畜種別・出荷地別搬入状況

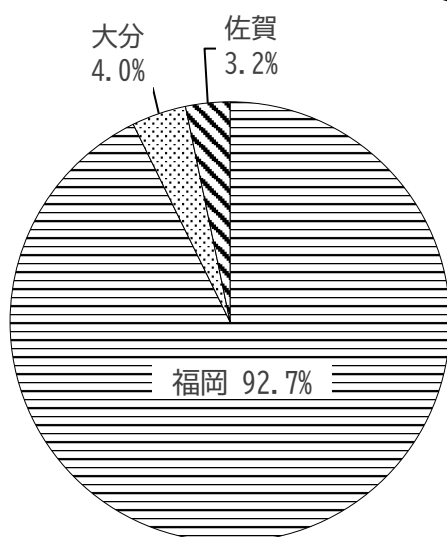
	牛	とく	馬	豚	めん羊・山羊
福岡	4,311	1	654	52,401	
佐賀	4,756		356	1,835	
長崎	1,299				
熊本	1,874	73	173		
大分	1,753			2,262	
宮崎	3,474				
鹿児島	1,269		1		
沖縄	14				
高知					
山口	311				
北海道					
合計	19,061	74	1,184	56,498	0

出荷地別搬入状況

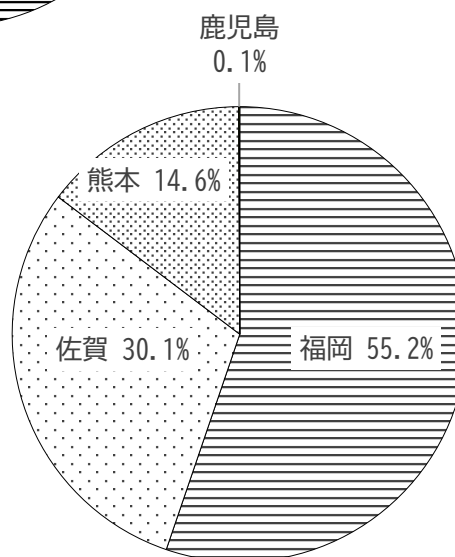
牛・とく



豚



馬



(13) BSE検査

平成13年9月21日に国内初のBSE(牛海綿状脳症)が確認されたことに伴い、平成13年10月18日以降、と畜を行う全ての牛についてBSE検査を実施してきた。平成29年4月1日から健康と畜牛のBSE検査が廃止されたことを受け、検査が必要とみなされた牛の検査を実施している。

BSE検査実施牛(とくを含む)の内訳 (頭数)

【県南食肉センター】

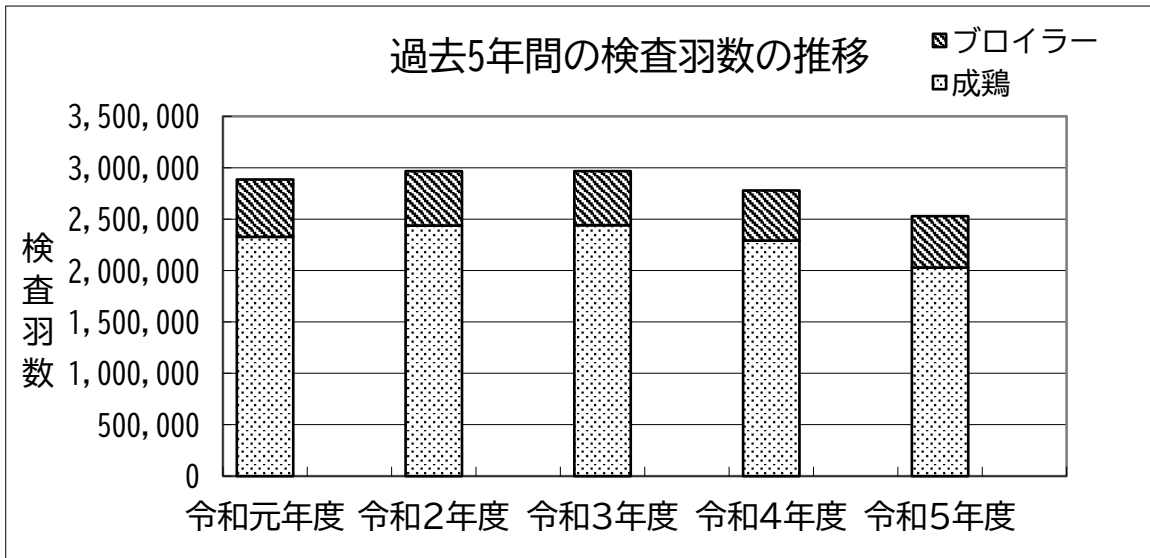
分 類	乳用種		肉専用種		交雑種		計	
	県 内	県 外	県 内	県 外	県 内	県 外	県 内	県 外
ア 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、生体検査時において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛	0	0	0	0	0	0	0	0
イ その他の牛	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0

【九州協同食肉㈱】

分 類	乳用種		肉専用種		交雑種		計	
	県 内	県 外	県 内	県 外	県 内	県 外	県 内	県 外
ア 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、生体検査時において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛	0	0	0	0	0	0	0	0
イ その他の牛	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0

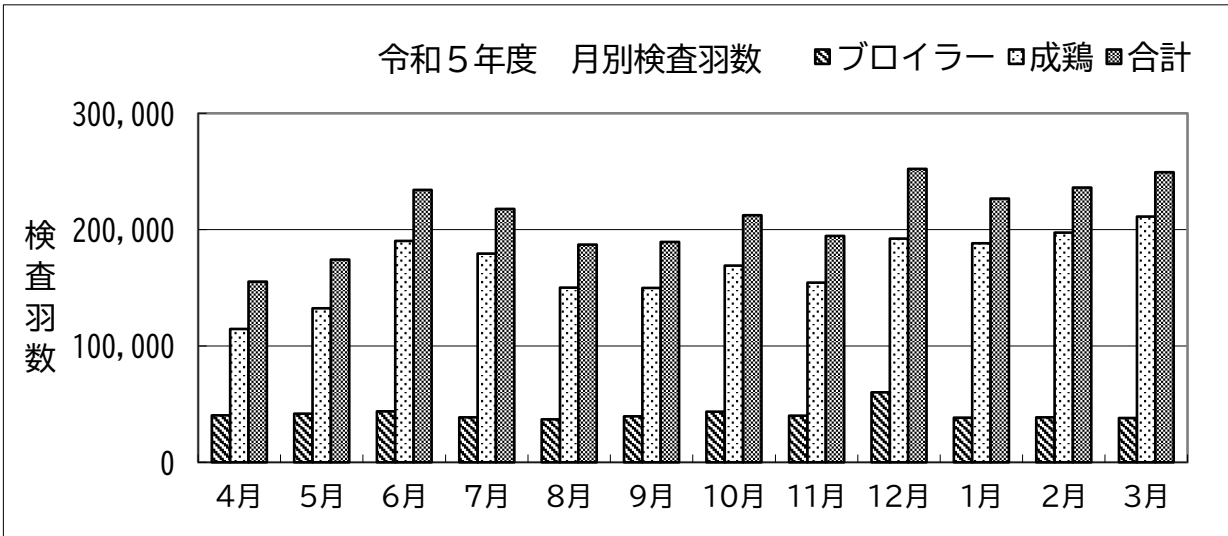
2 食鳥検査

(1) 大規模食鳥処理場の食鳥検査羽数及び検査結果



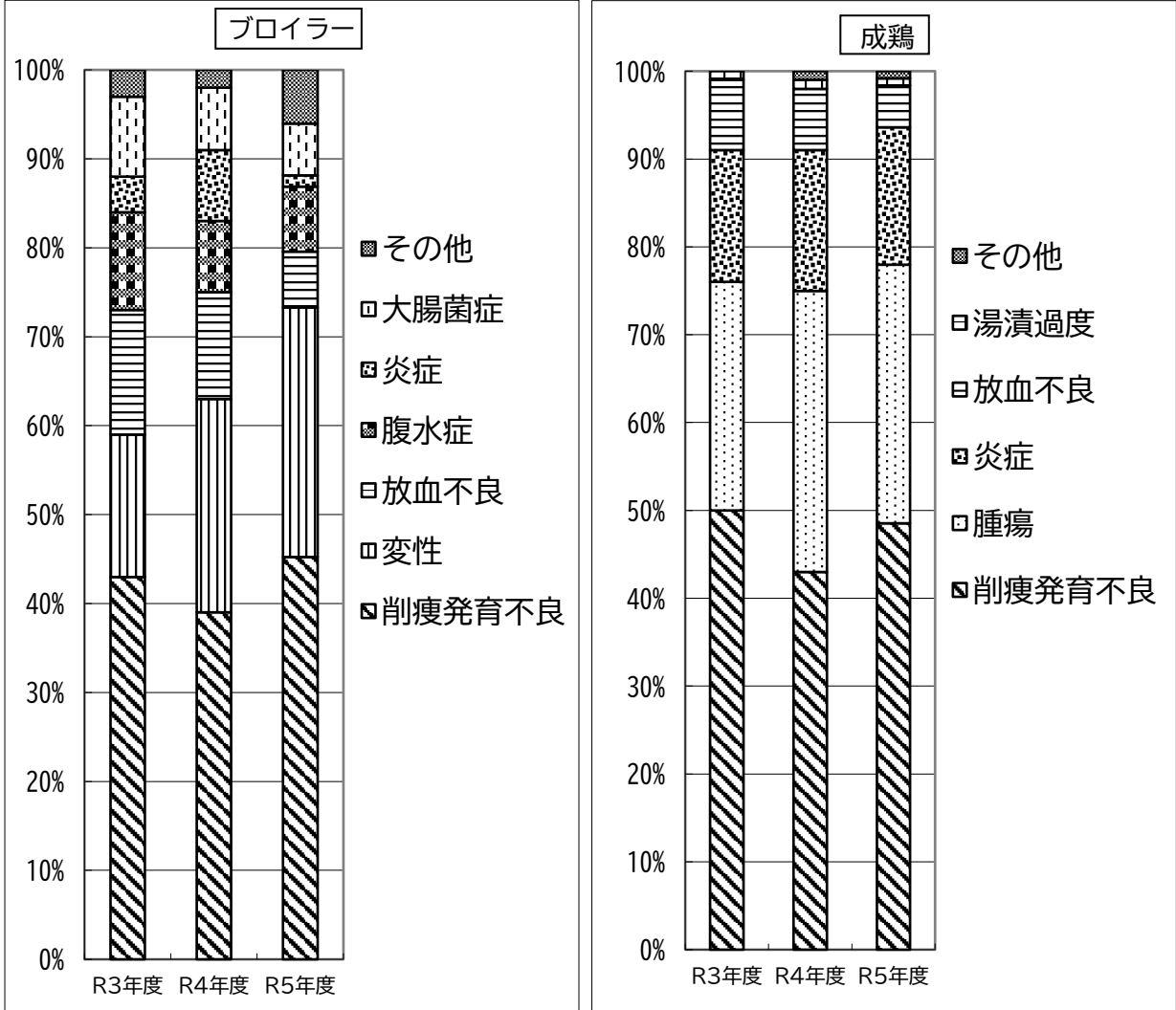
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ブロイラー	559,564	526,915	525,304	487,024	499,856
成鶏	2,327,268	2,438,766	2,440,776	2,290,425	2,029,652
合計	2,886,832	2,965,681	2,966,080	2,777,449	2,529,508

処理施設数：2施設



鶏種/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ブロイラー	40,475	41,784	43,937	38,501	36,963	39,370	43,540	40,082	60,188	38,422	38,506	38,088	499,856
成鶏	114,708	132,523	190,162	179,287	150,264	149,930	168,968	154,538	192,172	188,321	197,601	211,178	2,029,652
合計	155,183	174,307	234,099	217,788	187,227	189,300	212,508	194,620	252,360	226,743	236,107	249,266	2,529,508

過去3年間の廃棄の原因(禁止・全部廃棄)



禁止・全部廃棄率(%)

	R3年度	R4年度	R5年度
消瘦発育不良	43.0	39.0	45.2
変性	16.0	24.0	28.0
放血不良	14.0	12.0	6.3
腹水症	11.0	8.0	7.3
炎症	4.0	8.0	1.3
大腸菌症	9.0	7.0	5.8
その他	3.0	2.0	6.0
計	100.00	100.00	100.00

(%)

禁止・全部廃棄率(%)

	R3年度	R4年度	R5年度
消瘦発育不良	50.0	43.0	48.5
腫瘍	26.0	32.0	29.4
炎症	15.0	16.0	15.6
放血不良	8.0	7.0	4.8
湯漬過度	1.0	1.0	0.8
その他	0.0	1.0	0.8
計	100.00	100.00	100.00

(%)

と殺、内臓の摘出禁止又は廃棄したもの原因

処理食鳥種		ブロイラー			成 鶏			計		
検査羽数		499,856			2,029,652			2,529,508		
処分項目		禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄
処理実羽数		4,491	919	1,197	23,575	21,104	923	28,066	22,023	2,120
ク ウ イ ル ジ ス ア 病 ・	鶏 痘				23	4		23	4	
	伝 染 性 気 管 支 炎									
	伝 染 性 喉 頭 気 管 炎									
	ニ ュ ー カ ッ ス ル 病									
	鶏 白 血 病					2			2	
	封 入 体 肝 炎									
	マ レ ッ ク 病	3	12			1		3	13	
	そ の 他									
細 菌 病	大 腸 菌 症	2	314			5		2	319	
	伝 染 性 コ リ ー ザ									
	サ ル モ ネ ラ 病									
	ブ ド ウ 球 菌	3	2					3	2	
	そ の 他									
そ の 他 の 疾 病	毒 血 症									
	膿 毒 症									
	敗 血 症	9	68			14		9	82	
	真 菌 症									
	原 虫 病 (トキヲ除く)		2						2	
	寄 生 虫 病									
	変 性	1,467	50	25		51	4	1,467	101	29
	尿酸塩沈着症									
	水 腫		2			25			27	
	腹 水 症	274	120			39		274	159	
	出 血	2	1	727		63	86	2	64	813
	炎 症	22	47	340	1	6,990	823	23	7,037	1,163
	萎 縮									
	腫 瘍	4	37			13,148	8	4	13,185	8
	臓器の異常な形等	7	26	90		138	2	7	164	92
	異 常 体 温									
	黄 疸									
	外 傷	5	2	15		2		5	4	15
	中 毒 諸 症									
	削 瘦 及 び 発 育 不 良	2,235	212		21,067	615		23,302	827	
	放 血 不 良	321	20		2,125	7		2,446	27	
	湯 漬 過 度	136	4		359			495	4	
	そ の 他	1						1		
計		4,491	919	1,197	23,575	21,104	923	28,066	22,023	2,120

(2) 認定小規模食鳥処理場の確認羽数及び確認結果

種類 (開場日数)	確認羽数	食鳥の異常の有無確認結果						廃棄羽数の合計	
		生体の 状況	体表の状況		体壁の 内側面 の状況	内臓の状況			
		禁止又は 全部廃棄	全部廃棄	一部廃棄	全部廃棄	当該臓器 のみ廃棄	内臓全て 廃棄	全部廃棄	一部廃棄
ブロイラー (487)	10, 586					28			28
成鶏 (1, 547)	257, 459	282	606	1, 648	604	3, 505	244	1, 492	5, 397
あひる (0)	0								
七面鳥 (0)	0								
合計	268, 045	282	606	1, 648	604	3, 533	244	1, 492	5, 425

施設数:13施設
(うち3施設は休止中)

認定小規模食鳥処理場に対しては、定期的に立ち入り調査を実施し、確認規程に基づく確認作業の実施状況、構造設備及び衛生管理基準の遵守状況について、確認の上、指導している。

3 精密検査

(1) 微生物検査

令和5年度、食肉検査の判定に関わる微生物学的検査を牛(とくを含む)11 頭、豚36頭で実施した。陽性と判定したもののうち疾病別では敗血症が牛7頭及び豚10頭、豚丹毒が6頭であった。【表1】

表1 病因決定のための検査

検査項目		検査頭数	検体数	陽性頭数	備考
敗血症	牛	11	63	7	
	豚	13	65	10	
豚丹毒	関節炎型	22	44	5	
	心内膜炎型	1	5	1	
計		47	177	23	

(2) 理化学検査

令和 5 年度に理化学検査を実施した獣畜は 292 頭、検体数は 517 検体であった。【表 2】

表2 理化学検査件数

検査項目		検査頭数	検体数	検査細目
尿毒症		6	17	アゾスティック 血清中尿素窒素 血清中クレアチニン
黄疸		8	8	血清中総ビリルビン
残留有害物質	簡易法	230	444	抗生物質(ペニシリン系、テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系)
	分別推定法	0	0	抗生物質(ペニシリン系、テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系)
	HPLC 等	48	48	合成抗菌剤(11成分 ^{*1}) 抗生物質(テトラサイクリン系)
合計		292	517	

^{*1}:オキシリン酸、チアンフェニコール、ナリジクス酸、オルトメトプリム、トリメトプリム、ピリメタミン及びサルファ剤(スルファメラジン、スルファジミジン、スルファモノメトキシシ、スルファジメトキシシ、スルファキノキサリン)

ア と畜検査に対応する精密検査

(ア)尿毒症

「尿毒症」が疑われた牛 6 頭について、簡易検査及び精密検査を実施し、血清中の尿素窒素(BUN)濃度及びクレアチニン濃度を測定した結果、牛 2 頭を尿毒症と診断し、全部廃棄処分とした。【表 3】

表3 尿毒症による全部廃棄

月 日	獣 種	場 所	尿素窒素(BUN) 濃度(mg/dl)	所 見
			クレアチニン 濃度(mg/dl)	
7月22日	牛 (肉)	九食	96	肝炎、腎炎、腎結石、膀胱炎、尿道結石
			12.8	
2月1日	牛 (肉)	九食	98	胸膜炎、腎炎、膀胱炎、筋水腫
			13.7	

(イ) 黄疸

「高度の黄疸」が疑われた牛 7 頭及び馬 1 頭について、血清中の総ビリルビン(T-Bil)濃度を測定した結果、牛 2 頭及び馬 1 頭が全部廃棄処分となった。【表 4】

表4 高度の黄疸による全部廃棄

月日	獣種	血清中総ビリルビン (mg/dl)	所 見
8 月 18 日	牛 (乳)	3.3	全身の黄変、肝炎、胃炎、大腸炎、小腸炎
9 月 19 日	馬	8.1	全身の黄変、心筋炎、肝炎、大腸炎
12 月 8 日	牛 (肉)	2.4	全身の黄変、肝炎、肺炎

イ 食肉中の残留有害物質検査

福岡県食品衛生監視指導計画に基づき、通常搬入畜及び家きんを対象とした残留有害物質モニタリング検査を実施した。検査頭数は 96 頭、結果は全て陰性であった。

また、抗菌性物質の残留が疑われる病畜及び通常搬入畜の一部についても、簡易法(直接法)によるモニタリング検査を実施した。検査頭数は 134 頭、結果は全て陰性であった。【表 5,6】

表5 モニタリング検査(簡易法)結果

獣種	通常畜(モニタリング)		病畜等		計	
	検査頭数	陽性数	検査頭数	陽性数	検査頭数	陽性数
牛	48	0	134	0	182	0
とく	0	0	0	0	0	0
馬	8	0	0	0	8	0
豚	24	0	0	0	24	0
鶏	16	0	0	0	16	0
計	96	0	134	0	230	0

表6 抗菌性物質検査項目別検査頭数

物質名	検 査 項 目			合 計 (延べ頭数)
	簡易法	分別 推定法	合成 抗菌剤	
牛	182	0	24	206
とく	0	0	0	0
馬	8	0	4	12
豚	24	0	12	36
鶏	16	0	8	24
合計	230	0	48	278

(3) 病理検査

ア 病理検査件数

令和 5 年度に病理組織検査を実施した獣畜は 115 頭羽、検体数は 555 検体であった。

イ 診断した疾病

獣種別の診断した疾病は以下のとおり。なお、括弧内の数は症例数を示す。

<牛:74頭>

炎症(12)	肺	・ 壊死性化膿性線維素性肺炎・カタル性肺炎・線維素性肺炎(1)
	肝臓	・ 肝炎(1) ・ リンパ球性間質性肝炎(1) ・ 増殖性小葉間静脈炎(2) ・ 増殖性好酸球性胆管炎(1)
	腎臓	・ 皮質壊死を伴う間質性腎炎(1) ・ 皮質における異栄養性石灰沈着および尿細管の壊死(1) ・ 化膿性間質性腎炎(1)
	心臓	・ 壊死性化膿性心内膜炎(1) ・ 線維素性心外膜炎および石灰化を伴う心内膜の線維増生(1)
	小腸	・ 好酸球性小腸炎(2)
	その他	・ グラム陽性菌による棍棒体集落を伴う化膿性肉芽腫性炎(2) ・ 慢性肉芽腫性炎(1) ・ 化膿性リンパ節炎(2) ・ リンパ節炎(1)
腫瘍(45)		・ リンパ腫(42) ・ 脂肪腫(1) ・ 肝細胞腺腫(2)
変性(6)	肝臓	・ 肝実質における出血(1) ・ 出血を伴う巣状壊死(1) ・ 肝細胞の空胞変性(2)
	その他	・ 脂肪壊死(1) ・ 横隔膜の脂肪症(1)
循環障害(3)		・ 肝うっ血(3)
過形成(2)		・ リンパ組織過形成(2)
奇形(1)		・ 第 2 胃における角化重層扁平上皮嚢胞(1)
その他(5)		・ メラニン色素沈着症(2) ・ 骨化生(1) ・ 髄外造血(1) ・ その他(2)

<馬:6頭>

炎症(2)	・ 肉芽腫を伴う好酸球性肝炎(1) ・ 結節性肝炎(1)
変性(2)	・ 細動脈の石灰沈着、慢性うっ血および中心動脈の石灰沈着(1) ・ 肝臓および心臓の脂肪変性(1)
循環障害(2)	・ 肺胞壁の肥厚および気管支における杯細胞増殖(1) ・ ヘモジデリン沈着(1)

<豚:14 頭>

炎症(8)	肝臓	・ 肝細胞巣状壊死を伴う肝炎(1) ・ グリソン鞘における線維増生および軽度の炎症性細胞浸潤、小葉間におけるリンパ球浸潤、間質性肝炎(1) ・ リンパ球性間質性肝炎(1) ・ 間質性肝炎(1) ・ その他(1)
	肺	・ 化膿性気管支肺炎、気管支肺炎、間質性肺炎、肺胞膜出血(1)
	消化管	・ 増殖性腸炎(1) ・ 好酸球性小腸炎(1)
腫瘍(3)		・ リンパ腫(2) ・ 腎芽腫(1)
変性(2)		・ 肝細胞のグリコーゲン変性および脂肪変性(2)
循環障害(1)		・ うっ血または充血(1) ・ その他(1)

<鶏:21羽>

炎症(7)	・ 巣状壊死を伴う化膿性肝炎(4) ・ 細菌性壊死性肝炎(1) ・ 細菌性壊死性脾炎(1) ・ 壊死性皮膚炎(1) ・ 化膿性炎(1)
変性(6)	・ 肝細胞の変性壊死(2) ・ 肝細胞の空胞変性(4)
腫瘍(6)	・ リンパ腫(2) ・ 血管肉腫(1) ・ その他(3)
その他(2)	・ 皮膚嚢胞(2)

(4) 業務管理基準(GLP)の対応、整備について

食品衛生検査施設におけるGLP導入については、食品衛生法施行令の一部改正により、平成9年4月1日から義務づけられ、当所でも平成10年4月からスタートした。

ア 導入経過

本県でも、平成9年度中に県内の食品衛生検査施設(当検査所、保健所検査課6施設(現在3施設)及び保健環境研究所)より検討委員を選出して、①試験品取扱標準作業書、②試薬管理標準作業書について、県下の検査施設での統一した作業書とラベルを作成した。併せて、試験品採取記録簿、試験品管理記録簿及び検査管理簿兼結果表の3部複写様式の作成と、検査結果通知書の原則統一様式の作成を行った。

その他の③機械器具保守管理標準作業書④検査実施標準作業書については、当所独自に作成した。

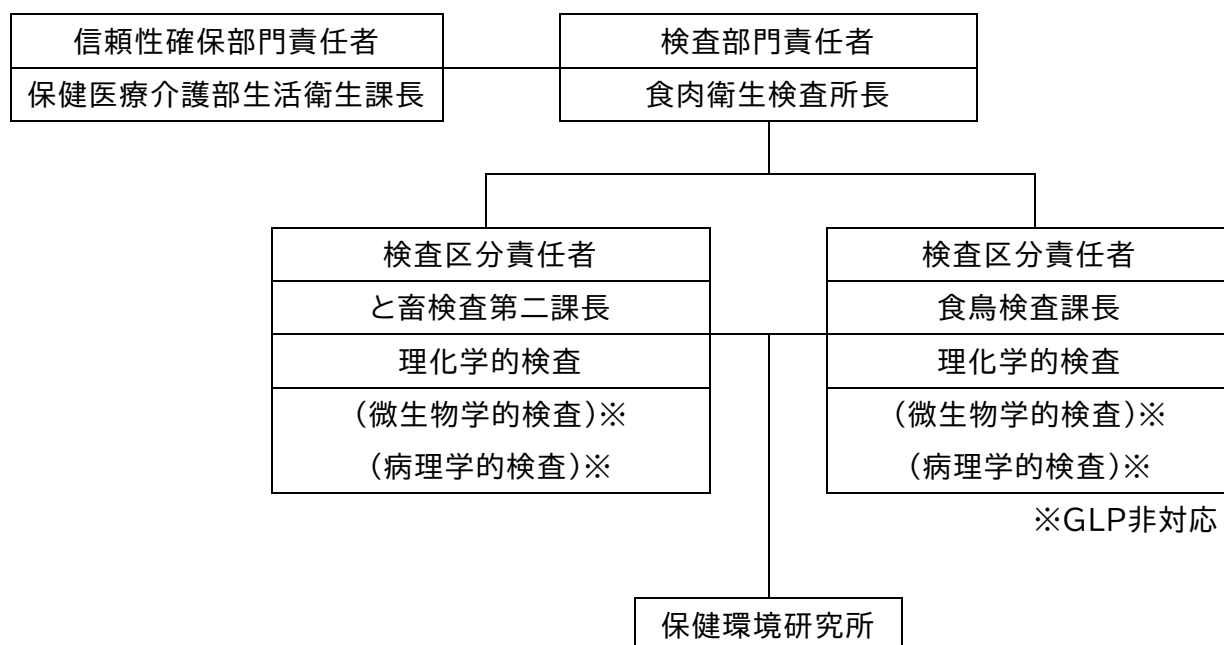
平成11年4月、「福岡県食品衛生検査施設等の業務管理に関する連絡協議会設置要領」が策定され、GLP委員連絡協議会、GLP検査区分責任者連絡協議会、GLP実務者連絡協議会が設置された。

令和5年度は、GLP検査区分責任者連絡協議会が1回開催されたが、実務者連絡協議会は開催されなかった。

イ 業務管理体制(組織の構成)

当所の業務管理体制は、下記の図のとおりである。当所の特色としては、と畜検査課と食鳥検査課で勤務時間が異なる変則勤務のため、と畜検査課と食鳥検査課にそれぞれ検査区分責任者を置いている。

また、当所において定量試験を行うことが困難な検査項目については、保健環境研究所に検査依頼を行っている。



ウ 内部精度管理

令和5年度は「スルファキノキサリン、スルファジアジン、スルファジミジン、スルファジメトキシシン、スルファメトキサゾール、スルファメトキシピリダジン、スルファメラジン、スルファモノメトキシシン試験法」、「オキシテトラサイクリン、テトラサイクリン及びクロルテトラサイクリン試験法」についてそれぞれ実施した。

エ 外部精度管理

(一財)食品薬品安全センター主催の全国統一の外部精度管理に、平成10年度から毎年参加している。

令和5年度は、①一般細菌数測定；定量、②サルモネラ属菌；定性、③残留動物用医薬品；スルファジミジンの3項目に参加した。

オ 妥当性評価

「食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価ガイドラインの一部改正について」(平成22年12月24日食安発第1224第1号)により、各試験機関において平成25年12月13日までに農薬等に関する試験法の妥当性評価を行うこととなった。

例年、各検査法のうち1検査法について、妥当性評価を行うこととしている。

令和5年度は「ペニシリン系抗生物質の検査法(アンピシリン、ベンジルペニシリン、オキサシリン、クロキサシリン、ナフシリン、ジクロキサシリン)」について実施した。

カ 内部点検

令和5年度は信頼性確保部門責任者による内部点検が1回行われた。

4 衛生指導

(1)微生物検査

当所では、と畜場及び食鳥処理場における食肉等の衛生確保を図るため、令和5年度福岡県食品衛生監視指導計画に基づき衛生検査を行っている。検査対象及び検査項目は下表のとおり。
 なお、結果に基づき衛生指導を実施済みである。

検査項目	検体部位(検体採取法)	検体数
一般細菌数及び腸内細菌科菌群数(定量)	牛枝肉の胸部の脂肪組織(切除法)	95
一般細菌数及び腸内細菌科菌群数(定量)	豚枝肉の頸部の脂肪組織(切除法)	50
一般細菌数、腸内細菌科菌群数及びカンピロバクター属菌数(定量)	食鳥とたい又は食鳥中抜きとたいの胸皮または首皮(切除法)	100
一般細菌数、大腸菌群数(定量)	食鳥とたい又は食鳥中抜きとたいの皮及びまな板(ふき取り法)	21
カンピロバクター属菌(定性)	食鳥とたい又は食鳥中抜きとたいの皮及びまな板(ふき取り法)	21(5)
腸管出血性大腸菌検査(定性)	牛枝肉の胸部及び肛門周囲部(ふき取り法)	12(0)
ザルコシスティス・フェアリー検査(定性)	馬枝肉の頸部筋肉	14(0)

() は陽性検体数

(2)と畜及び食鳥処理衛生向上運動旬間

と畜場及び食鳥処理場の清潔保持並びに、食肉等の衛生的な取扱いの強化及び関係者の衛生思想の普及向上により、清潔で衛生的な食肉等の生産を図る目的で、毎年 6 月から 7 月に衛生旬間を定め衛生標準作業手順書等に基づく衛生指導及び講習会を開催している。

〈と畜関係〉

と畜場名	開催月日	受講者数	講習内容
県南食肉センター	6月20日	7名	5S、食中毒予防、外部検証結果
九州協同食肉(株)	6月21日	23名	内臓の衛生的な取り扱い
	6月30日	27名	(株)大分県畜産公社について

〈食鳥関係〉

大規模食鳥処理場名	開催月日	受講者数	講習内容
(株)ヤマショウフーズ	7月14日	53名	① 衛生的な手洗いについて ② 外部検証の指摘事項について
(株)あらい	7月15日	13名	① 食中毒について ② HACCPに基づく衛生管理

認定小規模食鳥処理場については、県下2ヶ所で講習会を開催した。

講習場所	開催月日	受講者数	講習内容
福岡県食肉衛生検査所	7月12日	7名	① HACCPに基づく衛生管理 ② 食中毒について
宗像・遠賀保健福祉環境事務所	7月19日	3名	③ 令和4年度拭き取り検査結果 ④ 衛生的な手洗いについて

(3)と畜場、大規模食鳥処理場に併設する食肉処理施設等の監視指導

本所は、福岡県食品衛生監視指導計画に基づき、と畜検査及び食鳥検査業務に併せてこれらの施設の監視指導を行っている。

業種・種類	施設数	計画監視件数	監視件数	監視率(%)
① と畜場に併設する食肉処理施設	4	1013	1013	100
② 大規模食鳥処理場に併設する食肉処理施設				
① と畜場に併設する食肉処理施設の うち生食用食肉取扱い施設	9	54	133	246.3
② 認定小規模食鳥処理場に併設する 食肉処理施設				
③ 対外国食肉輸出施設として認定さ れた食肉処理施設				
野生鳥獣肉を取り扱う食肉処理業	19	57	20	35.1
と畜場に隣接する食肉処理施設のうち 上記以外の施設	1	2	4	200.0

第3章 調査研究

1 学会及び誌上発表一覧

年度	演 題 名	演 者 ・ 学 会 名
5	・ブロイラーにおける主な全部廃棄疾病の季節的変化の一考察 ・食鳥処理場における細菌汚染状況について ・食肉中の残留抗菌性物質の実態調査について ・牛の肝臓の増殖性好酸球性小葉間静脈炎について ・鶏の尿酸塩沈着症 ・増殖性好酸球性小葉間静脈炎 ・FIDガスクロマトグラフィーによる防ばい剤イマザリル・TBZ分析法	久野 友幸 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 臂 博美 ・九州地区食検協研修会 中村 和久 ・九州地区食検協研修会 宮之脇健二 ・九州地区食検協研修会 小川 卓司 ・全国食検協病理部会 長濱 邦昭 ・全国食検協病理部会 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会 佐藤 清 ・日本獣医公衆衛生学会(九州)
6	・豚丹毒菌の鋳型DNAの抽出及び増幅DNAの解析 ・ミセルクロマトグラフィーによる血清中の抗菌性物質の迅速検査法	高田 則子 ・全国食検協理化学部会 中村 和久 ・九州地区食検協研修会 宮崎 祐之 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 池野清太郎 ・全国食検協理化学部会 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会
7	・ミセルクロマトグラフィーによる血清中アンピシリンの迅速定量 ・フォトダイオードアレイ検出器付高速液体クロマトグラフィーを用いた畜水産物中の合成抗菌剤の一斉分析法 ・畜水産食品中の残留合成抗菌剤の一斉分析法(改訂法)での高速液体クロマトグラフィー(HPLC)分析における検体由来妨害ピークの発生要因の検討 ・多波長検出器を用いた高速液体クロマトグラフィー(アイソクラティック溶出)による厚生省モニタリング13合成抗菌剤の一斉分析法(改訂法)の検討	宮崎 祐之 ・日本獣医師会雑誌第48巻第10号 平成7年10月号 佐藤 清 ・福岡県獣医師会会報 宮崎 祐之 ・福岡県獣医師会会報 松尾 樹治 ・九州地区食検協研修会 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会
8	・大規模食鳥処理場における「朝引き鳥」の微生物制御について ・日常検査におけるニューキノロン系の同時分析 ・病変部由来豚丹毒菌の疫学的解析 ・一斉分析法におけるニューキノロン剤の同時分析	坂井 義博 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 野中 寿子 ・全国食検協理化学部会 高田 則子 ・全国食検協微生物部会 ・食肉衛生技術研修会 安在 敏 ・九州地区食検協研修会 ・食肉衛生技術研修会
9	・と畜場で分離された大腸菌O157の解析	高山 優子 ・日本獣医公衆衛生学会(全国)
10	・認定小規模食鳥処理場の指導について ・食鳥処理場における食中毒細菌汚染状況調査とその改善策 ・食鳥処理場における食鳥肉等のサルモネラ汚染状況 ・福岡県食肉衛生検査所における過去5年間の食鳥検査状況	迎田 恵之 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 井手 修 ・全国食検協微生物部会 ・食鳥肉衛生技術研修会 前田 宏昭 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・日本獣医公衆衛生学会(全国) 浜崎 伸一 ・福岡県公衆衛生学会

年度	演 題 名	演 者 ・ 学 会 名
10	・認定小規模食鳥処理場の指導について ・食鳥処理場における食中毒細菌汚染状況調査とその改善策 ・食鳥処理場における食鳥肉等のサルモネラ汚染状況 ・福岡県食肉衛生検査所における過去5年間の食鳥検査状況 ・福岡県における大規模食鳥処理場のカンピロバクターおよびサルモネラ汚染の実態調査 ・食鳥処理場におけるカンピロバクターの検出率とRAPD-PCR法による解析 ・と畜場で分離された大腸菌O157の解析	迎田 恵之 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 井手 修 ・全国食検協微生物部会 ・食鳥肉衛生技術研修会 前田 宏昭 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・日本獣医公衆衛生学会(全国) 浜崎 伸一 ・福岡県公衆衛生学会 安増 邦理 ・福岡県公衆衛生学会 安増 邦理 ・全国食検協微生物部会 高山 優子 ・福岡県公衆衛生学会 ・全国公衆衛生学会
11	・生き残りをかけたAと畜場への衛生指導 ・パルスフィールドゲル電気泳動法による食鳥処理場由来サルモネラの疫学解析 ・PCRによる <i>Campylobacter jejuni</i> の迅速検査法 ・カンピロバクターの馬尿酸塩加水分解試験についての一考察	竹内 峰男 ・九州地区食検協研修会 ・食肉衛生技術研修会 前田 宏昭 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 安増 邦理 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 永田 朋子 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会
12	・経過措置期間中の牛解体作業における衛生指導について ・食鳥処理場における衛生対策の検証 ・鶏におけるVRE保菌調査 ・豚におけるVRE保菌調査と枝肉の汚染調査	梅崎みどり ・九州地区食検協研修会 井手 修 ・九州地区食検協研修会 實政 智恵 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会 真鍋 修一 ・九州地区食検協研修会 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会 上田 敦士 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・福岡県公衆衛生学会 ・全国公衆衛生学会
13	・中抜き方法が異なる食鳥処理場における食鳥肉等の微生物汚染について ・と畜場における衛生意識向上のとりくみ ・牛における <i>Campylobacter</i> 属菌の検出 ・牛胆汁におけるカンピロバクター属菌の保菌状況	井手 修 ・九州地区食検協研修会 野見山 亨 ・食鳥肉衛生技術研修会 梅崎 由佳 ・福岡県公衆衛生学会 安増 邦理 ・九州地区食検協研修会 松木 三郎 ・福岡県公衆衛生学会
14	・認定小規模食鳥処理業者の衛生教育について ・ブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の農場別保菌状況および薬剤感受性について ・認定小規模食鳥処理施設における衛生検査と改善指導について ・イヌ、ネコ、ウシ、ブタにおけるクリプトスポリジウムの検出結果	戸越 幸子 ・九州地区食検協研修会 荒牧 明世 ・食鳥肉衛生技術研修会 松木 三郎 ・九州地区食検協研修会 長濱 邦昭 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 藤田 幸辰 ・日本獣医公衆衛生学会(九州)

年度	演 題 名	演 者 ・ 学 会 名
15	・牛海綿状脳症(BSE)検査の取り組み ・福岡県における動物由来感染症予防体制整備事業について ・牛、豚およびブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の保菌状況および食肉汚染について ・残留抗菌性物質独自モニタリング検査法の検討	石田 剛 ・福岡県公衆衛生学会 荒牧 明世 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・福岡県獣医師会会報 松木 三郎 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 松木 三郎 ・九州地区食検協研修会
16	・残留抗菌性物質独自モニタリング検査法の検討 ・食肉処理施設と連携した衛生指導について ・認定小規模食鳥処理場の拭き取り検査結果に基づく衛生指導について	荒牧 明世 ・全国食検協理化学部会 貝沼 陽子 ・九州地区食検協研修会 永田 祥代 ・九州地区食検協研修会
17	・アイガモの食中毒細菌保有状況等に関する基礎調査について ・<i>B.megaterium</i>を用いた残留抗菌性物質スクリーニング検査法の検討	野田 篤司 ・福岡県公衆衛生学会 ・全国公衆衛生獣医師協議会 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 荒牧 明世 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 南 奈津子 ・九州地区食検協研修会 ・食肉衛生技術研修会
18	・ブロイラーの内臓におけるカンピロバクターの分布について ・福岡県の牛における <i>Coxiella burnetii</i> に対する抗体保有状況調査	徳田 裕子 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 大古場正史 ・九州地区食検協研修会
19	・と畜場で斃死し炭疽を疑った牛から悪性水腫菌が分離された症例について ・と畜検査成績のフィードバックについて	大古場正史 ・九州地区食検協研修会 野田 篤司 ・九州地区食検協研修会
20	・認定小規模食鳥処理場での作業工程の改善事例について ・耳介腫大を呈した豚の2症例 ・と畜検査成績データベースシステム」構築と疾病発生動向の共有について ・食肉処理場に出荷された福岡県産豚のE型肝炎ウイルス浸潤状況	大池 史俊 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 葉玉 桐子 ・九州地区食検協研修会 谷崎 剛 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 横山 敦史 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 山崎 知絵 ・食品衛生監視員協議会(九州)
21	・認定小規模食鳥処理場における自主衛生管理向上への取り組み ・枝肉微生物モニタリングの統計的評価からと畜場に対する指導まで ・衛生指標菌数モニタリングデータの統計的評価の一例	浜崎 伸一 ・食品衛生監視員協議会(九州) ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 谷崎 剛 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 清水 良平 ・九州地区食検協研修会
22	・馬の内寄生虫用剤の使用状況及び筋肉中への残留状況調査	谷崎 剛 ・日本獣医公衆衛生学会(九州)

年度	演 題 名	演 者 ・ 学 会 名
24	・肉眼的に肺腫瘍との鑑別が困難であった馬の肺に形成されたCryptococcomaの一例 ・牛の第四胃粘膜下腫瘍、肝臓腫瘍 ・馬における<i>Campylobacter</i>属菌の保菌状況調査	一二三達郎・九州地区食検協研修会 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 一二三達郎・全国食検協病理部会 鈺崎 健太・九州地区食検協研修会 ・食肉衛生技術研修会
25	・肉眼的に結核病が疑われた牛の原発不明腺癌の一例 ・馬肝臓の灰白色硬結節におけるエキノкокクス(多包虫)感染状況調査 ・馬肝臓の灰白色硬結節におけるエキノкокクス(多包虫)感染状況調査	木下 広之・九州地区食検協研修会 一二三達郎・九州地区食検協研修会 池田 加江・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・日本獣医公衆衛生学会(全国)
26	・胸壁への転移がみられた牛の胸膜原発線維肉腫の1例 ・福岡県のと畜場に搬入された馬にみられた肝臓灰白色硬結節と多包虫感染との関連性 ・生食用食肉の腸内細菌科菌群検出試験法を応用したふき取り検査等による生食用食肉加工施設への衛生指導について	一二三達郎・日本獣医公衆衛生学会(九州) 一二三達郎・日本獣医師会雑誌第68巻第4号 植中 俊尚・九州地区食品衛生監視員研修会 ・全国食品衛生監視員研修会 (誌上発表)
27	・と畜場内のふきとり検査等による豚レンサ球菌強毒株の浸潤状況調査について	大谷 公美・九州地区食検協研修会
28	・と畜検査において遭遇した牛のメラノーシス及び悪性黒色腫の症例 ・豚丹毒菌の性状解析と関係機関の連携による発生抑制への取組み	吉田 桂子・九州地区食検協研修会 藤野 直子・全国食検協微生物部会
29	・黒毛和種肥育牛でのヨーネ病発生事例 ・全身性の馬円虫症が疑われた1症例	木下 広之・九州地区食検協研修会 木下 広之・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・全国食検協研修会 (誌上発表)
30	・リアルタイムPCRを使わないヨーネ病遺伝子検査法の検討 ・敗血症により全部廃棄処分とした豚の病理学的検査結果 ・採卵鶏の腹膜に多発した水胞病変1例についての鑑別および診断	野見山結子・日本獣医公衆衛生学会(九州) 吉田 桂子・九州地区食検協研修会 吉田 桂子・全国食検協病理研修会 ・食肉及び食鳥肉衛生技術研修
1	と畜検査で遭遇した豚のろ胞性リンパ腫の症例	吉田 桂子・九州地区食検協研修会 ・The Journal of Medical Science 3月号
2	炭疽菌Davis株の莢膜発現を目的とした培養方法の検証	田島 三愛・九州地区食検協研修会
3	関連のある2農場で多発した豚の疣贅性心内膜炎から分離された <i>Streptococcus suis</i> の解析	笠 伸之・九州地区食検協研修会 ・食肉及び食鳥肉衛生技術研修

福岡県行政資料	
分類記号 GF	所属コード 4404707
登録年度 06	登録番号 0001